2015年3月期
決算説明資料

2015年5月11日

JDC 日本海洋掘削株式会社

目次

1. マーケットレビュー
代表取締役社長 市川 祐一郎

2. 2015年3月期 決算概要
代表取締役専務執行役員 山田 健造

3. 2016年3月期 通期業績予想
代表取締役専務執行役員 山田 健造

4. 長期経営ビジョンと成長戦略
代表取締役社長 市川 祐一郎

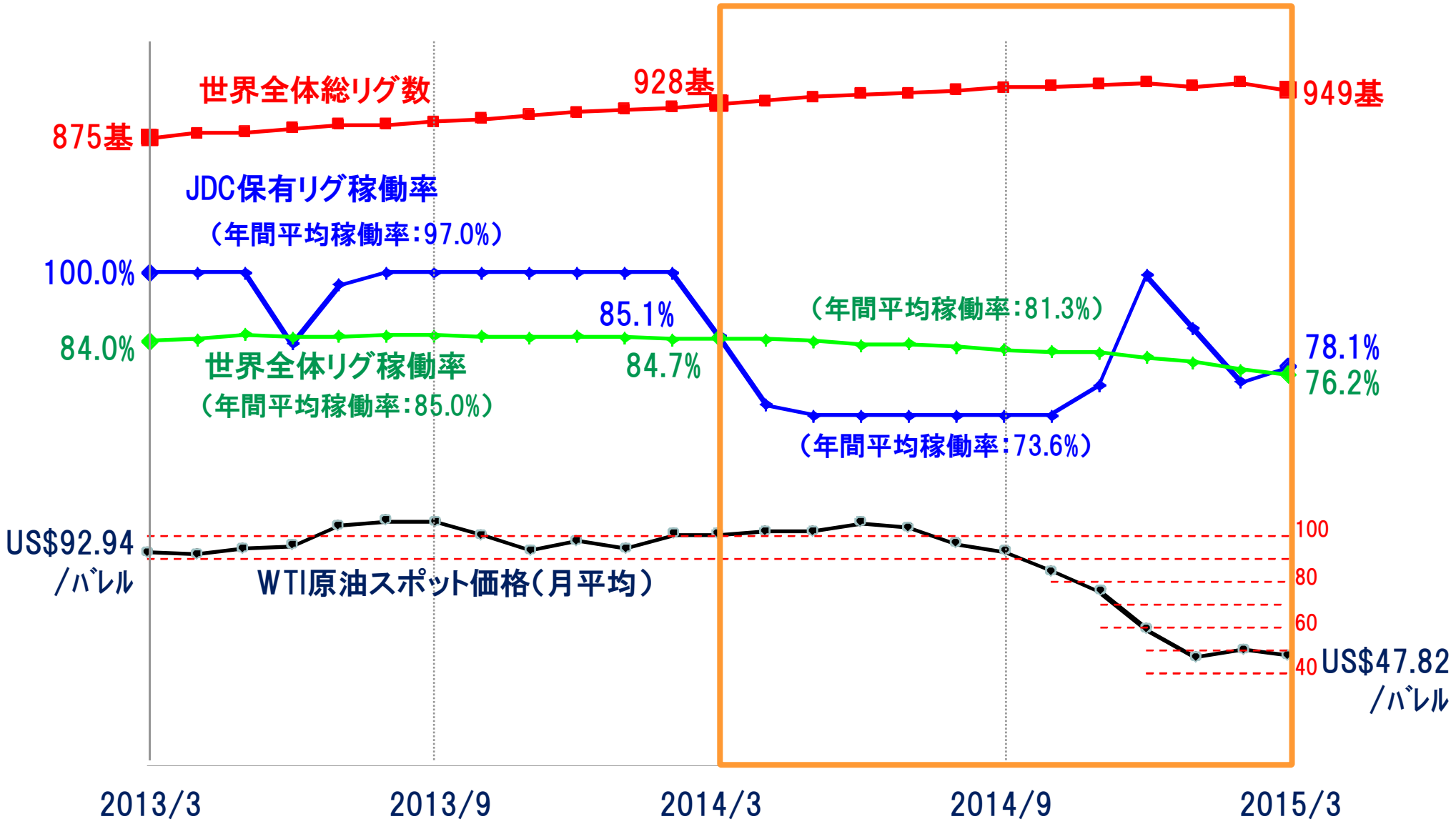
参考資料

1.マーケットレビュー

代表取締役社長

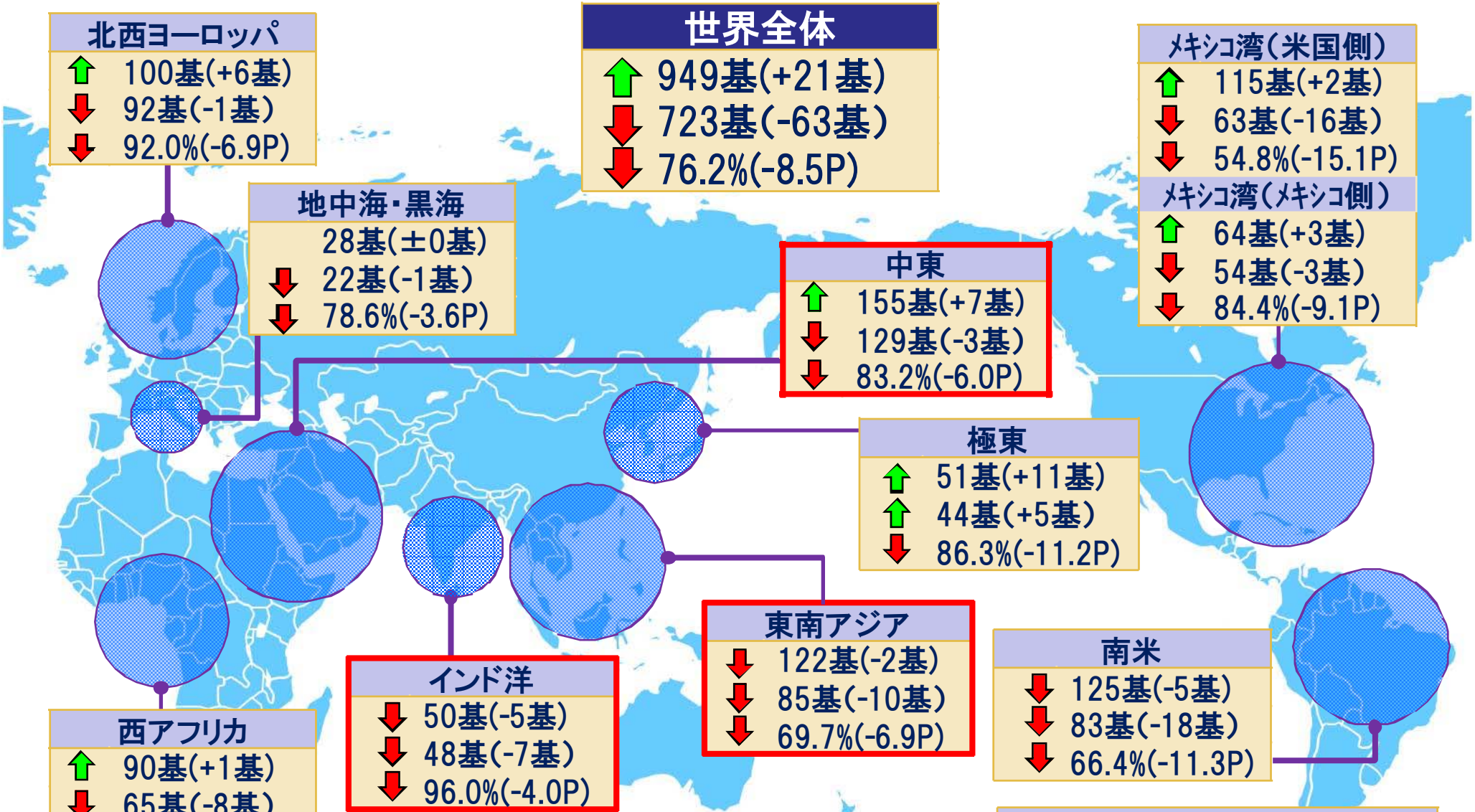
市川　祐一郎

原油価格(月平均)とリグ数・稼働率の推移



IHS-Petrodata資料及びU.S. Energy Information Administrationより当社作成

主要海域別リグ数・稼働概況



世界全体
- ↑ 949基(+21基)
- ↓ 723基(-63基)
- ↓ 76.2%(-8.5P)

北西ヨーロッパ
- ↑ 100基(+6基)
- ↓ 92基(-1基)
- ↓ 92.0%(-6.9P)

地中海・黒海
- 28基(±0基)
- ↓ 22基(-1基)
- ↓ 78.6%(-3.6P)

中東
- ↑ 155基(+7基)
- ↓ 129基(-3基)
- ↓ 83.2%(-6.0P)

メキシコ湾(米国側)
- ↑ 115基(+2基)
- ↓ 63基(-16基)
- ↓ 54.8%(-15.1P)

メキシコ湾(メキシコ側)
- ↑ 64基(+3基)
- ↓ 54基(-3基)
- ↓ 84.4%(-9.1P)

極東
- ↑ 51基(+11基)
- ↑ 44基(+5基)
- ↓ 86.3%(-11.2P)

東南アジア
- ↓ 122基(-2基)
- ↓ 85基(-10基)
- ↓ 69.7%(-6.9P)

南米
- ↓ 125基(-5基)
- ↓ 83基(-18基)
- ↓ 66.4%(-11.3P)

インド洋
- ↓ 50基(-5基)
- ↓ 48基(-7基)
- ↓ 96.0%(-4.0P)

西アフリカ
- ↑ 90基(+1基)
- ↓ 65基(-8基)
- ↓ 72.2%(-9.8P)

その他(カスピ海等)
- ↑ 49基(+3基)
- ↓ 38基(-1基)
- ↓ 77.6%(-7.2P)

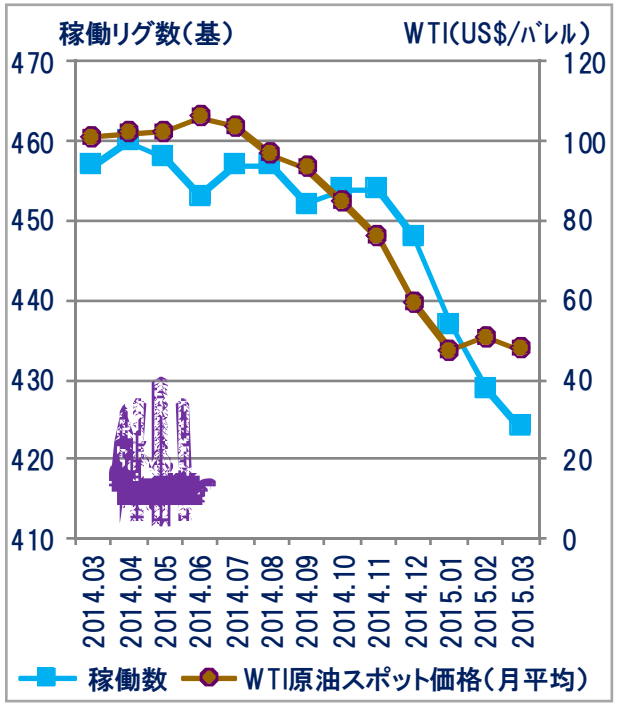
当社グループ運用リグ稼働海域

稼働海域
上段:総リグ数(前年同期比)
中段:稼働リグ数(前年同期比)
下段:稼働率(前年同期比)

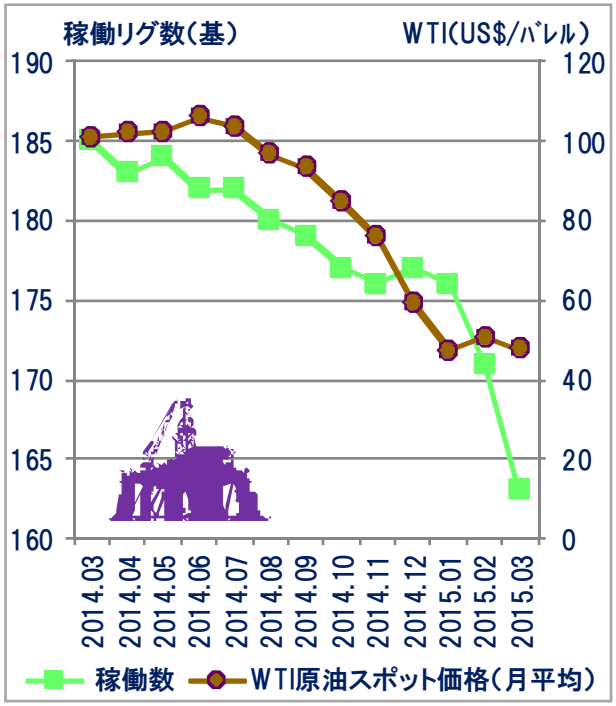
IHS-Petrodata資料より当社作成

原油価格(月平均)とタイプ別稼働リグ数の推移

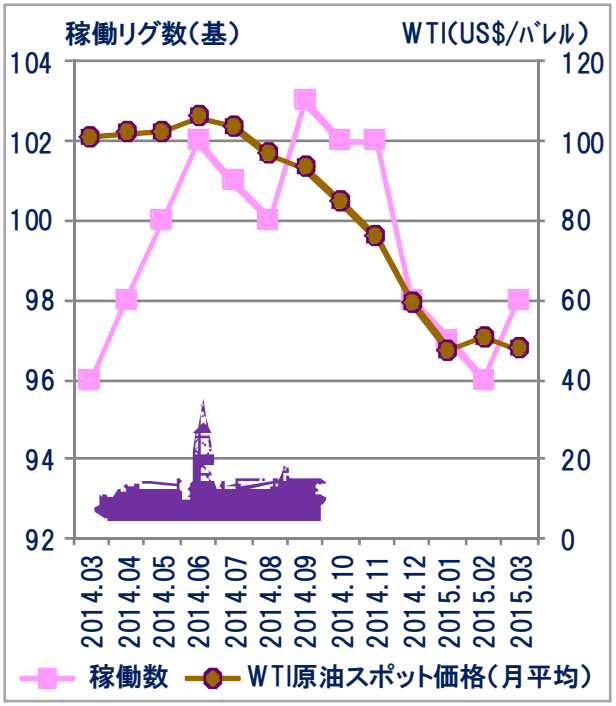
ジャッキアップ



セミサブ



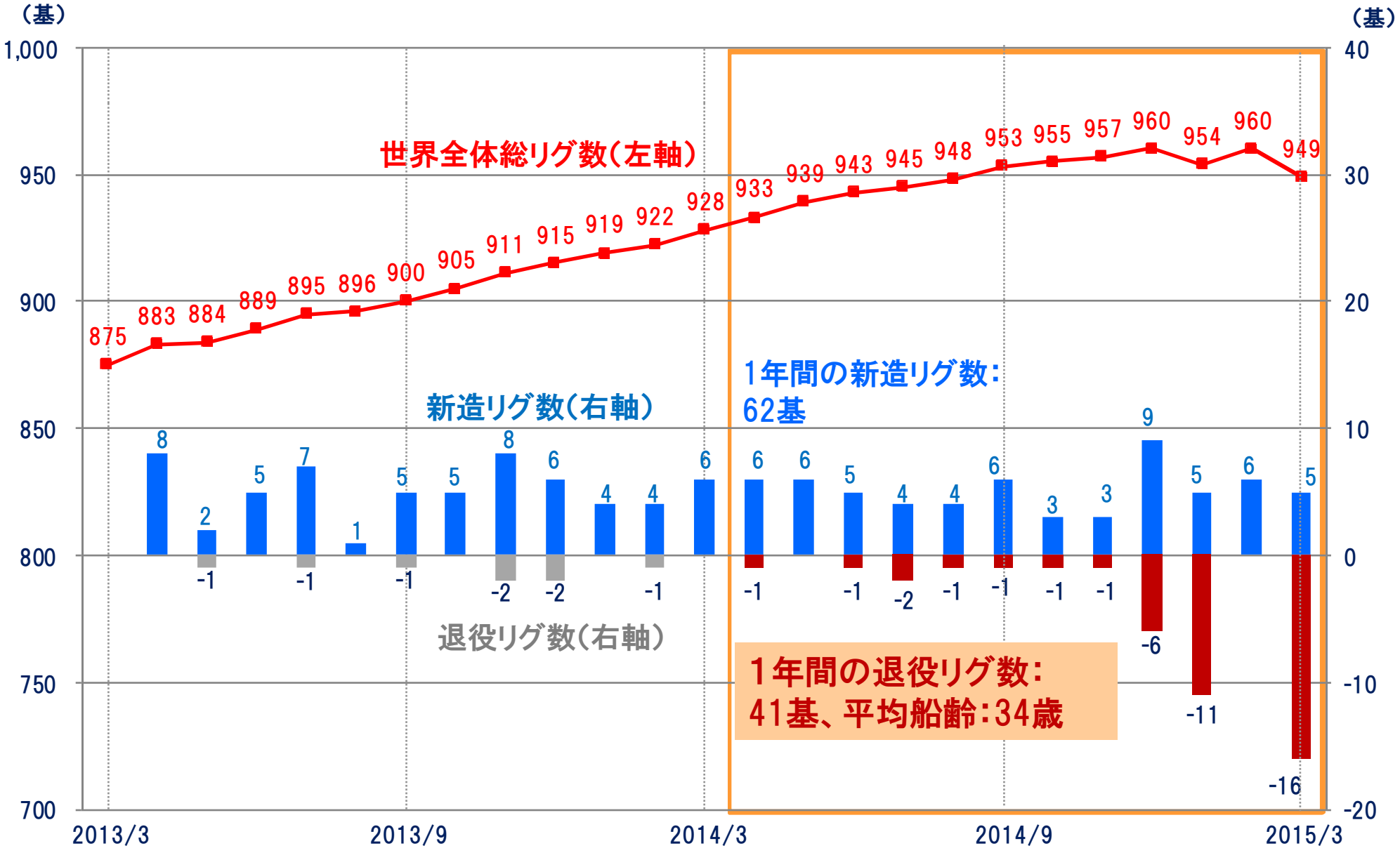
ドリルシップ



【リグタイプ別】	2014年3月		2015年3月		増減	
	総リグ数	稼働リグ数 稼働率	総リグ数	稼働リグ数 稼働率	総リグ数	稼働リグ数 稼働率
ジャッキアップ	516	457 88.6%	544	424 77.9%	+28 (新造38、退役10)	△33 △ 10.6p
セミサブ	218	185 84.9%	197	163 82.7%	△ 21 (新造2、退役23)	△22 △ 2.1p
ドリルシップ	101	96 95.0%	117	98 83.8%	+16 (新造19、退役3)	+2 △ 11.3p
その他	93	48 51.6%	91	38 41.8%	△2 (新造3、退役5)	△10 △ 9.9p
合計	928	786 84.7%	949	723 76.2%	+21 (新造62、退役41)	△63 △8.5p

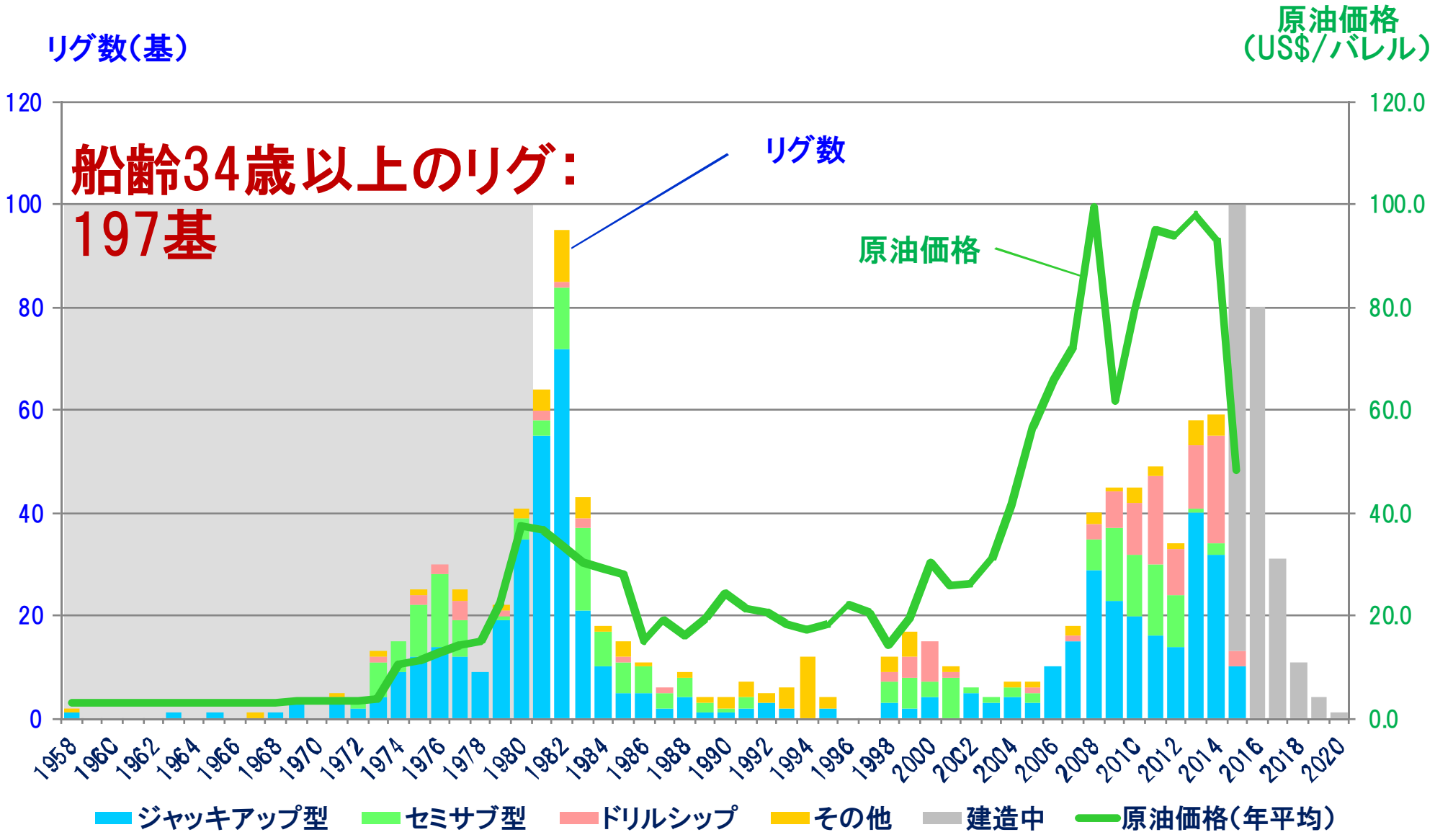
IHS-Petrodata資料及びU.S. Energy Information Administrationより当社作成

リグ数推移と新造・退役リグ数



IHS-Petrodata資料より当社作成

原油価格(年平均)と建造年別リグ数の推移



対象:2015年3月末に現存するリグ949基　及び　建造中・発注済みリグ214基

IHS-Petrodata資料及びU.S. Energy Information Administrationより当社作成

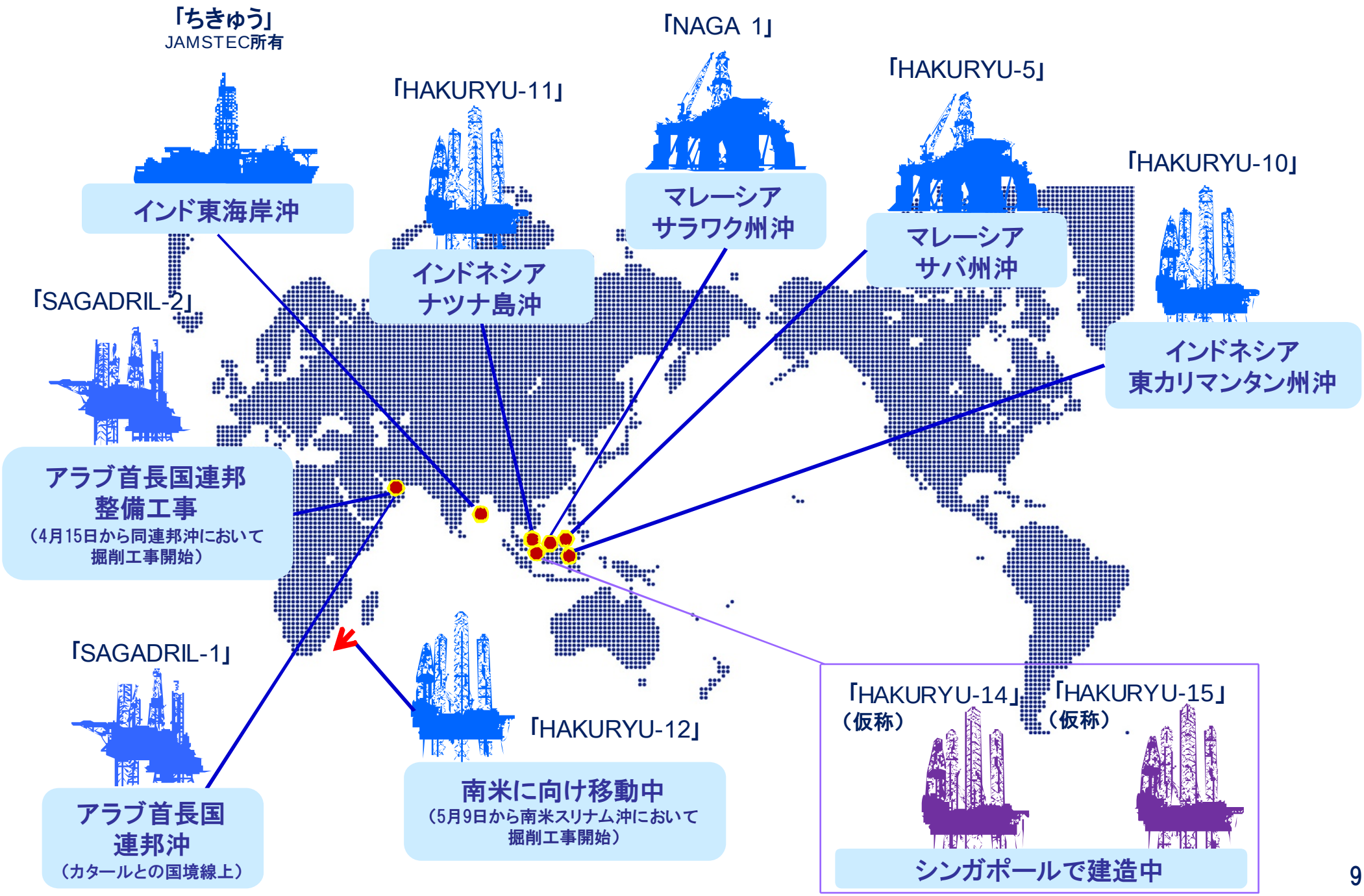
2. 決算概要

2015年3月期

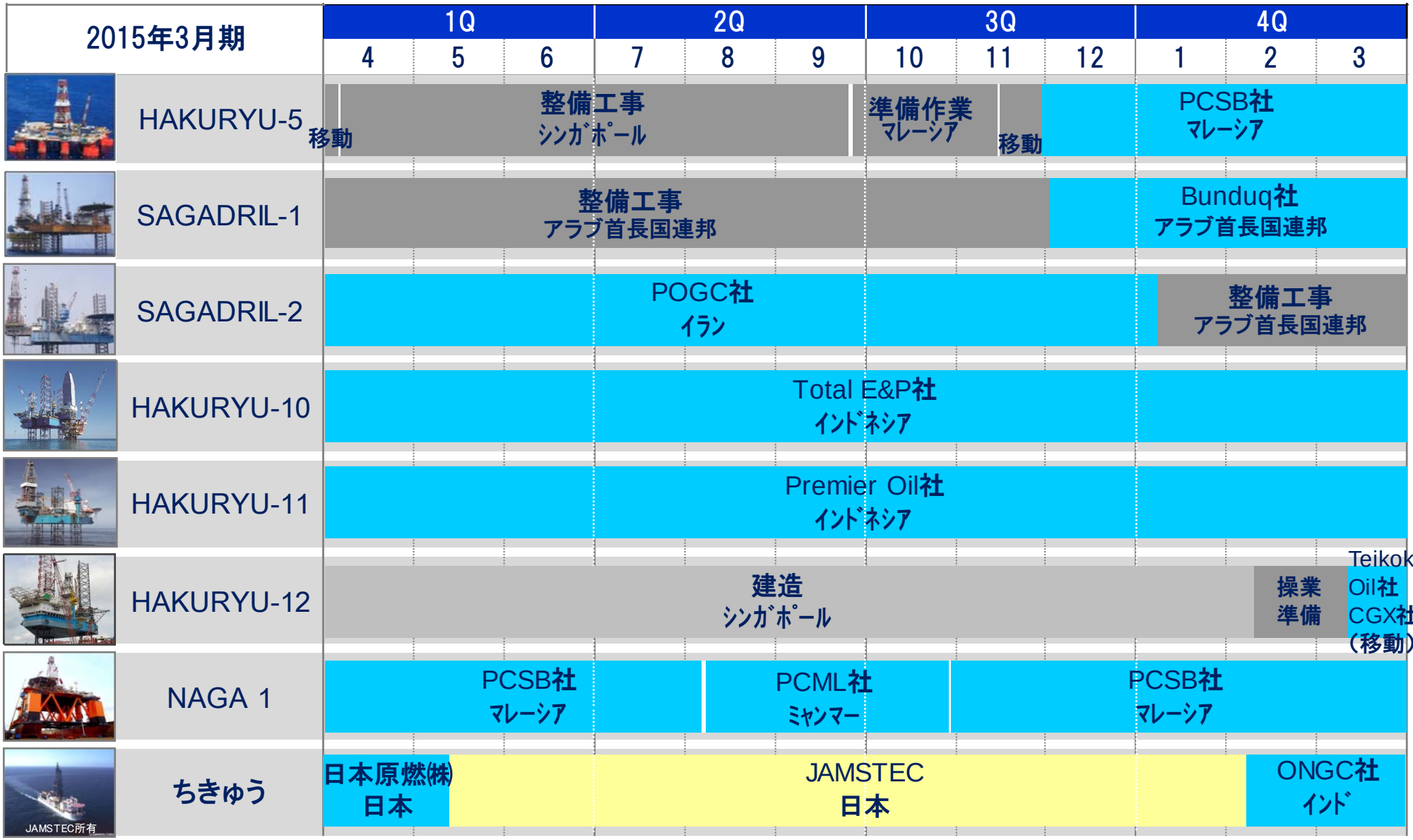
代表取締役専務執行役員

山田　健造

当社グループ運用リグの操業状況(2015年3月31日現在)



リグフリート操業実績



契約済　工事・待機等　科学掘削

（注） 契約期間中でも、整備工事等のためにリグの稼働を中断させることがあります

連結損益計算書(前期比)

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2014年3月期	2015年3月期	増減	増減率
売上高	40,134	32,584	△7,549	△18.8%
売上原価	26,652	27,492	+840	+3.2%
販売費及び一般管理費	3,571	4,249	+678	+19.0%
営業利益	9,910	842	△9,068	△91.5%
営業外収益	2,977	3,051	+73	+2.5%
営業外費用	607	633	+26	+4.3%
経常利益	12,281	3,260	△9,020	△73.5%
特別利益	2	780	+778	-
特別損失	359	233	△125	△35.0%
税金等調整前当期純利益	11,924	3,807	△8,117	△68.1%
法人税等	5,586	1,791	△3,795	△67.9%
少数株主利益	232	123	△108	△46.7%
当期純利益	6,106	1,892	△4,213	△69.0%
1株当たり当期純利益(円)	339.23	105.15	△234.08	△69.0%

「ちきゅう」 : △5,552百万円
「HAKURYU-5」 : △5,137百万円
「HAKURYU-11」 : +2,893百万円

「HAKURYU-5」 : +1,824百万円
「SAGADRIL-1」 : +1,539百万円
「HAKURYU-12」 : +1,177百万円
「HAKURYU-11」 : +1,003百万円
「ちきゅう」 : △4,653百万円

持分法投資利益 : △1,450百万円
為替差益 : +1,505百万円

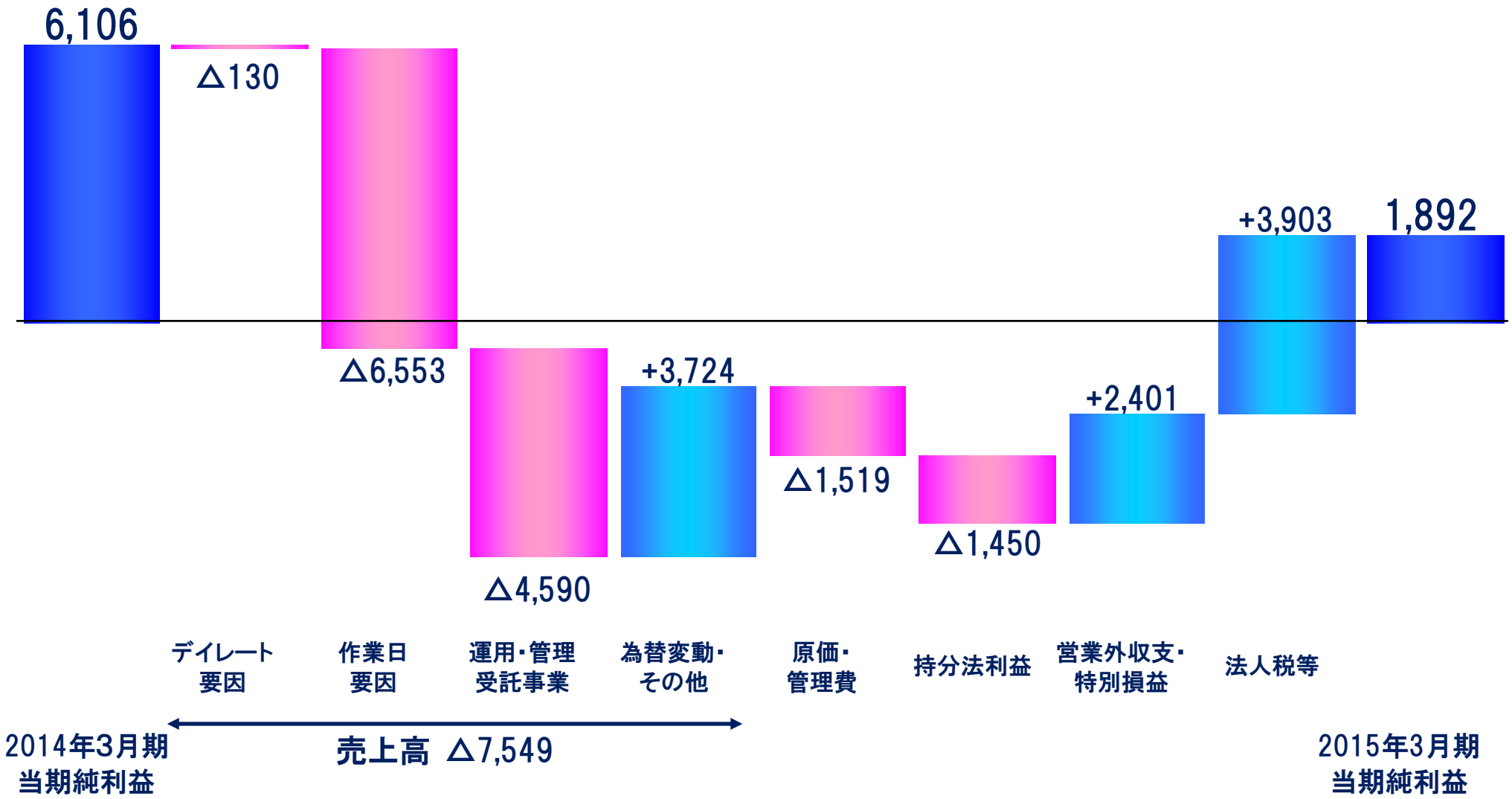
投資有価証券売却益 : +778百万円

期中平均為替レート

2014年3月期:99.80円/US$
2015年3月期:110.68円/US$

当期純利益の減少要因分析(前期比)

単位:百万円



業績予想比

単位：百万円 （百万円未満切捨て）	前回予想 （2月5日発表）	実績	増減		増減率
売上高	34,175	32,584	※1	△1,590	△4.7%
営業利益	261	842	※2	+581	+222.6%
経常利益	2,514	3,260	※3	+745	+29.6%
当期純利益	1,902	1,892		△9	△0.5%

※1　売上高減少要因　：「ちきゅう」の科学掘削減少、「ちきゅう」インドONGC社の商業掘削関連で当社が手配する第三者提供サービスの売上減少

※2　営業利益増加要因：上記売上高減少に伴う売上原価の減少、「HAKURYU-5」の整備・アップグレード工事に係る修繕費と物品費等売上原価の減少

※3　経常利益増加要因：円安の影響による為替差益の増加

連結貸借対照表(前期末比)

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2014年 3月期末	2015年 3月期末	増減	増減率
流動資産	41,036	62,457	+21,421	+52.2%
有形固定資産	43,198	47,051	+3,852	+8.9%
無形固定資産	239	277	+37	+15.7%
投資その他	19,960	6,116	△13,844	△69.4%
資産合計	104,436	115,902	+11,466	+11.0%
流動負債	19,857	20,246	+388	+2.0%
固定負債	25,768	33,417	+7,649	+29.7%
負債合計	45,625	53,663	+8,037	+17.6%
純資産	58,810	62,238	+3,428	+5.8%
負債・純資産合計	104,436	115,902	+11,466	+1.0%
自己資本比率	55.6%	53.1%	△2.6p	-

現金預金 : +5,314百万円
有価証券 : +10,411百万円

機械装置等 : +12,221百万円
建設仮勘定 : △3,599百万円
減価償却 : △4,563百万円

投資有価証券 :△15,151百万円

短期期借入金 : △1,083百万円

社債(私募債) : +4,245百万円
長期借入金 : +3,450百万円

当期純利益 : +1,892百万円
為替換算調整 : +1,981百万円
配当金支払 : △449百万円

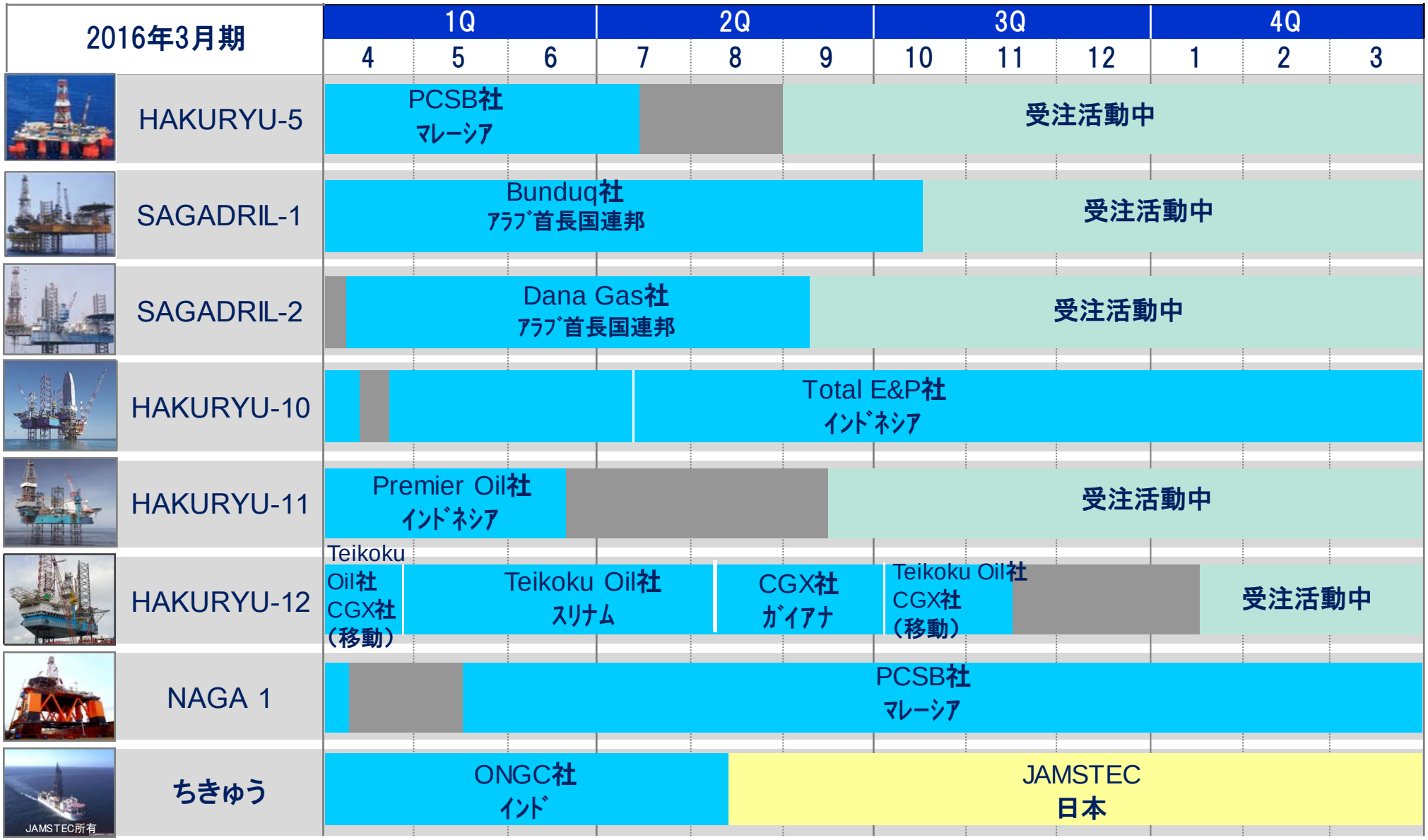
3. 通期業績予想

2016年3月期

代表取締役専務執行役員

山田　健造

リグフリート操業計画



契約済　工事・待機等　科学掘削　受注活動中

（注） 契約期間中でも、整備工事等のためにリグの稼働を中断させることがあります

通期　連結業績予想要約

想定為替レート:115円/US$

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2015年3月期 実績	2016年3月期 予想	増減 (b)-(a)	増減率
売上高	32,584	40,507	※1　+7,922	+24.3%
営業利益	842	899	※2　+57	+6.8%
経常利益	3,260	436	※3　△2,824	△86.6%
当期純利益	1,892	(親会社株式に帰属する当期純利益) 169	△1,723	△91.0%

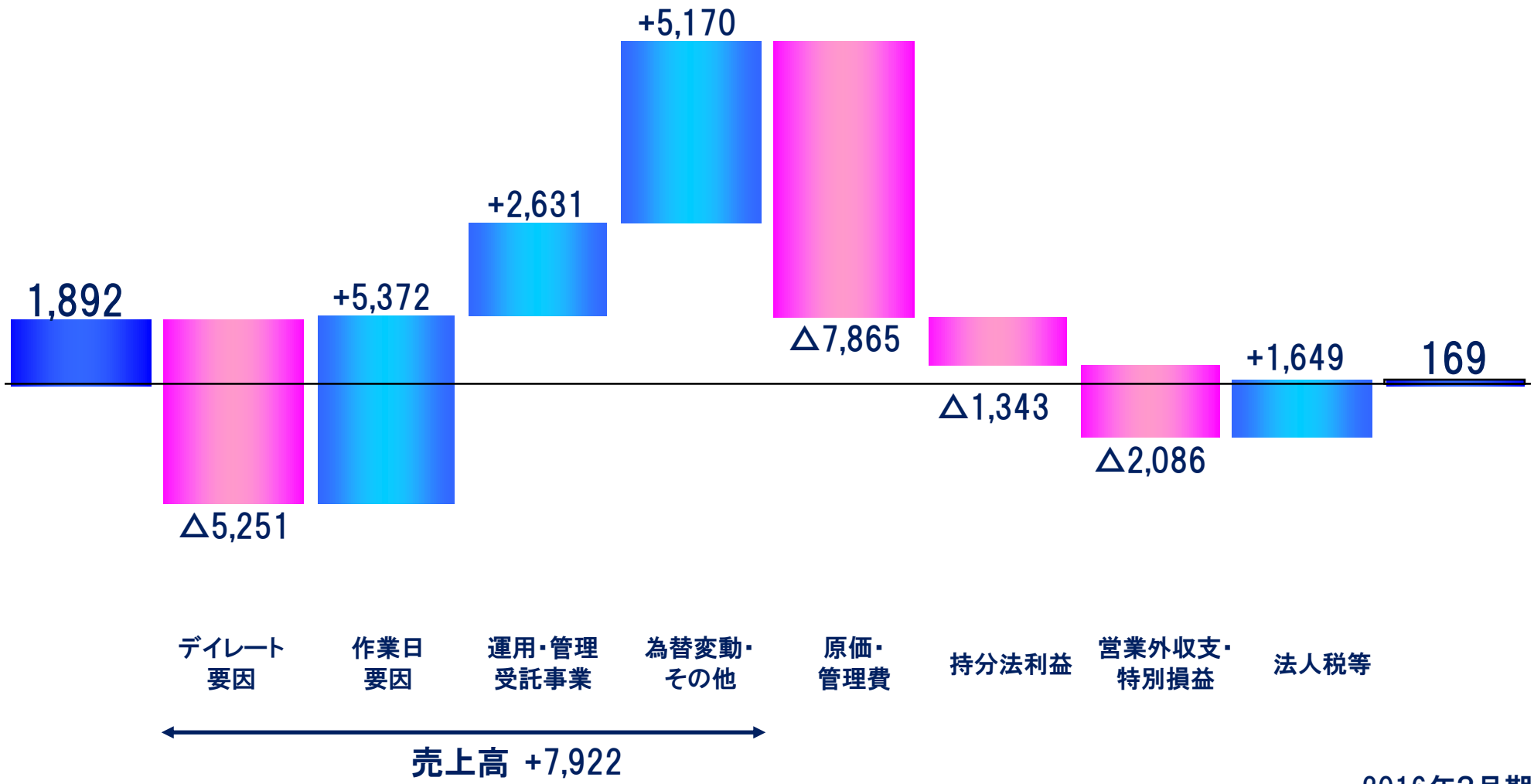
※1　売上高増加要因　:「HAKURYU-12」の操業開始による作業日数の増加
「HAKURYU-5」「SAGADRIL-1」の作業日数の増加

※2　営業利益増加要因:売上高増加に伴う売上原価の増加により営業利益は微増

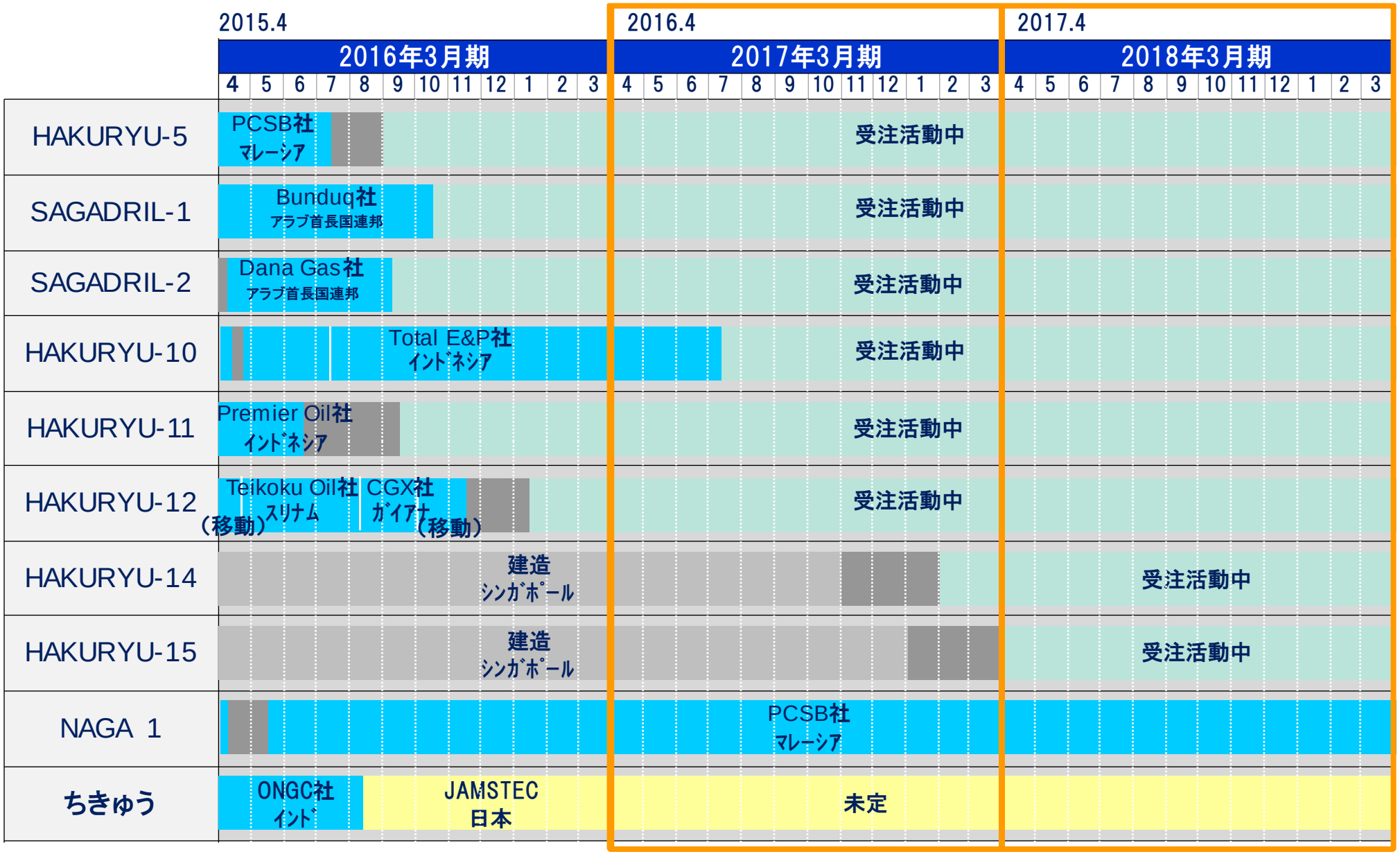
※3　経常利益減少要因:カタール合弁解消による持分法投資利益の減少

当期純利益の減少要因分析（前期比）

単位：百万円
（百万円未満切捨て）



リグフリート中期操業展開(2016年3月期～2018年3月期)



契約済　工事・待機等　科学掘削　受注活動中

（注） 契約期間中でも、整備工事等のためにリグの稼働を中断させることがあります

4. 長期経営ビジョンと成長戦略

代表取締役社長

市川　祐一郎

長期経営ビジョン（経営の基本精神）

長期経営ビジョン

- 和而拓（和して拓く）
- 日本文化と伝統に基づく
  掘削コントラクタースピリットの共有
- 「夢」と「希望」と「誇り」が持てる会社

長期経営ビジョン（事業環境）

将来的に大きな成長が見込まれる海洋掘削市場

海洋石油の重要性

・海洋における石油生産比率：
2012年 31.4% → 2020年 34.0%
MARKETSANDMARKETS 「Offshore Drilling Rigs Market-Global Forecast to 2019」予測

原油価格の動向 （2014年→2020年）

原油価格
（US$/バレル）

IEA 予想　EIA 予想

IEA「Medium Term Oil Market Report 2015（2015年2月）」及び、EIA「Annual Energy Outlook 2015（2015年4月）」より当社作成

大水深海域への開発投資

・2015年から2020年までの5年間の大水深開発投資額は2100億米ドル（約25兆円）、その前の5年間に比べ69%増加する見込み
Douglas-Westwood 「World Deepwater Market Forecast 2015-2019」予測

リグの需給動向

・中長期的には、現在建造中の214基に加え、さらに約200基の海洋掘削リグ（内、大水深リグ約100基）が必要となる見込み

掘削坑井数の増加 （2013年→2020年）

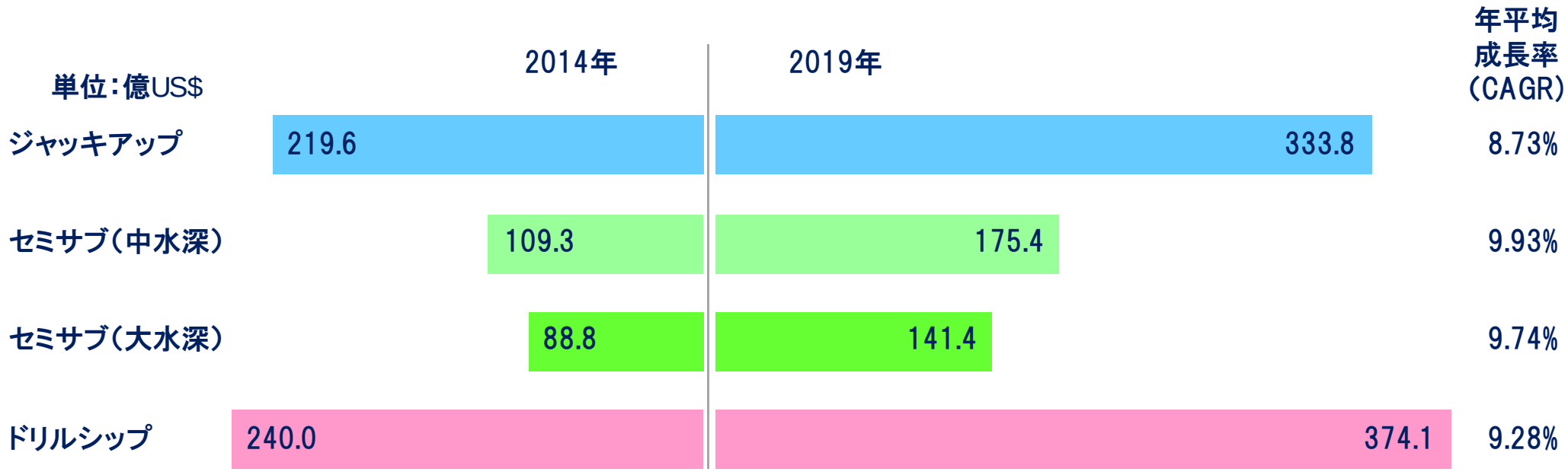
井戸の小型化、生産の進行→井戸1本当たりの生産性の減少→掘削坑井数の増加
・浅水深での掘削坑井数： 30.8%増加
・大深深での掘削坑井数： 37.6%増加
Douglas-Westwood（2014年4月）予測

成長する海洋掘削市場

リグタイプ別市場規模予想

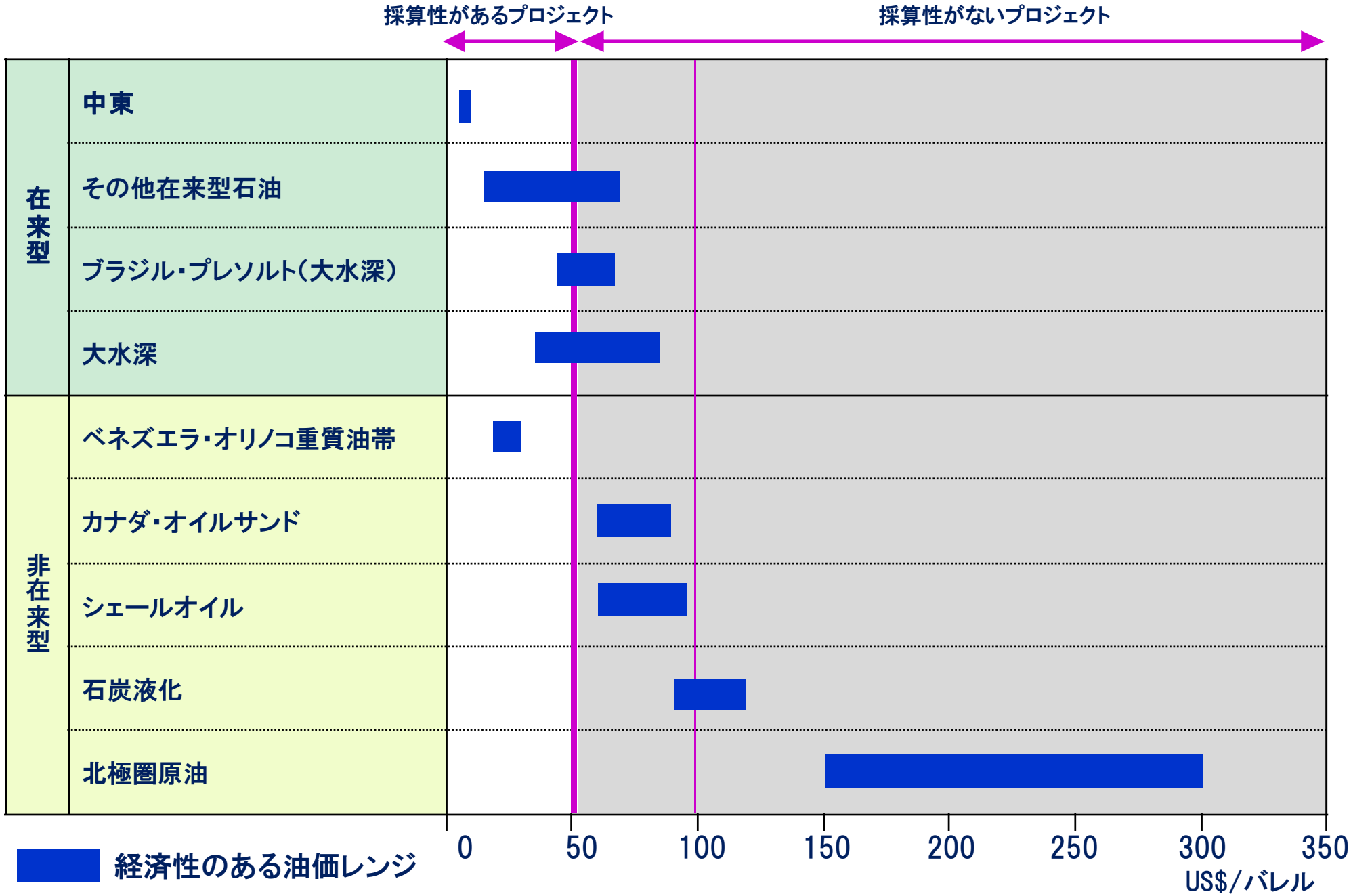
単位：億US$

リグタイプ	2014年	2019年	年平均成長率(CAGR)
ジャッキアップ(浅水深：400ft以下)	219.6	333.8	8.73%
セミサブ(中水深：4500ft未満)	109.3	175.4	9.93%
セミサブ(大水深：4500ft以上)	88.8	141.4	9.74%
ドリルシップ(大水深：4500ft以上)	240.0	374.1	9.28%
合計	657.7	1,024.7	9.27%



MARKETSANDMARKETSの資料(「OFFSHORE DRILLING RIGS MARKET：GLOBAL FORECAST TO 2019」)より当社作成

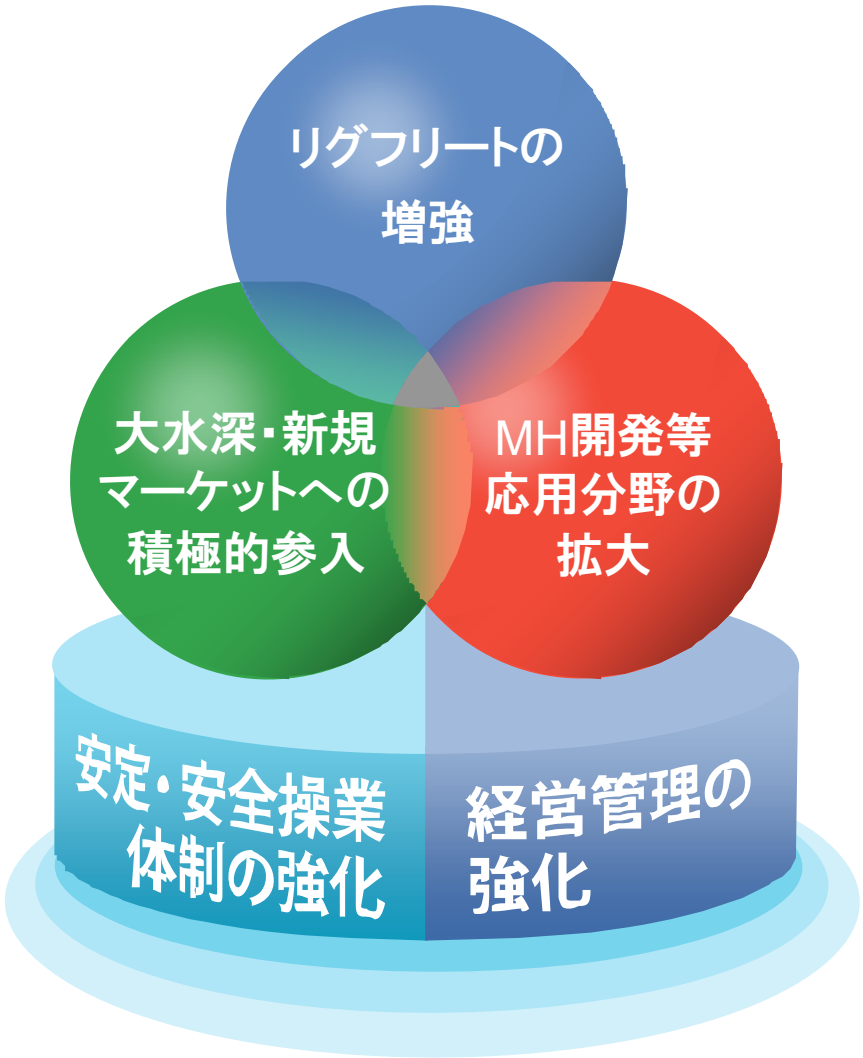
原油価格とプロジェクトの採算性

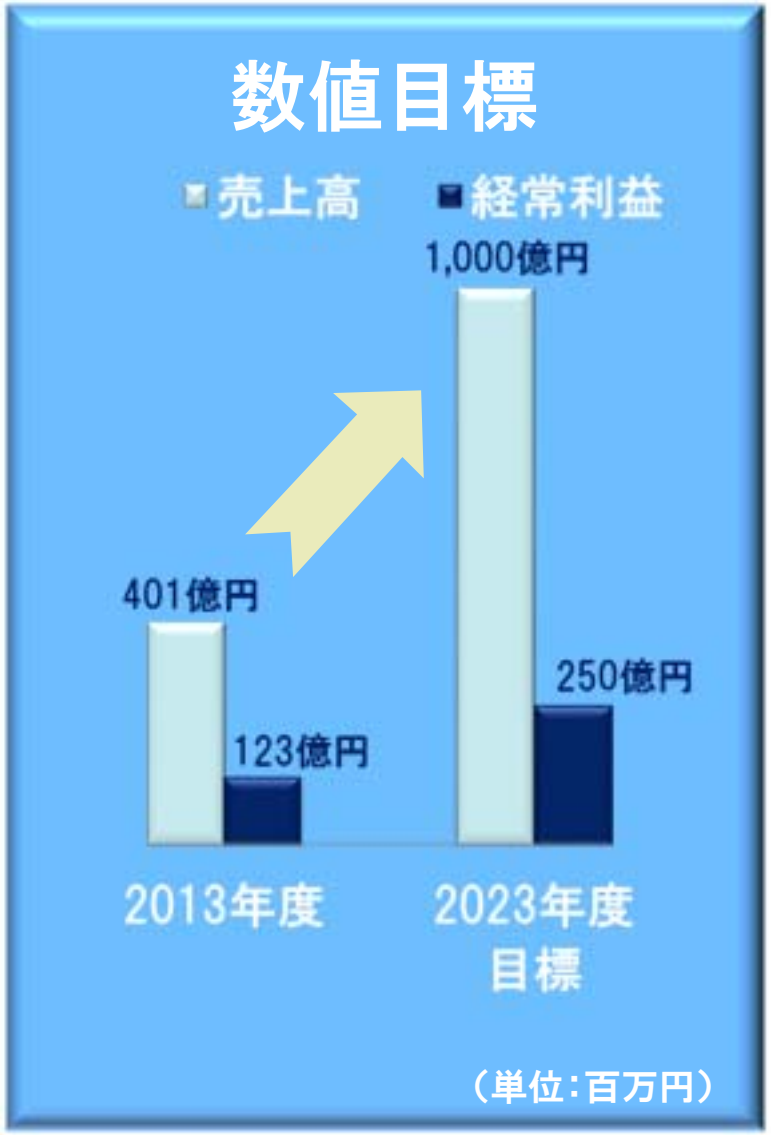


Douglas-Westwoodの資料「The World Deepwater Market Report 2012-2016」より当社作成

長期経営ビジョン（数値目標）

リグフリートの増強による経営の規模拡大・安定化





大水深・新規マーケットへの積極的参入戦略

- 大水深用フローターリグの調達

- 高緯度操業海域（サハリン・北極海・アラスカ等）における掘削の推進

- 高難度科学掘削（マントル掘削）への取り組み

応用分野の拡大　メタンハイドレート開発等応用分野の拡大戦略

メタンハイドレート商業化に向けて　（砂層型、海洋における工程）

平成25年度～平成27年度	平成28年度～平成30年度	平成30年代後半
世界初の「海洋産出試験」実施	中長期海洋産出試験	民間主導の商業化プロジェクト開始

経済産業省　平成25年12月24日「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画」の「メタンハイドレートの商業化に向けた工程表」をもとに当社作成

リグフリートの増強戦略

リグ増強

1.経年リグ対策

- アップグレードによる競争力の維持・向上
  「HAKURYU-5」、「NAGA　1」
- 後継リグ建造（リプレイスメント）
  「SAGADRIL-1」、「SAGADRIL-2」

2.当社が直接運用できるリグフリートの増強

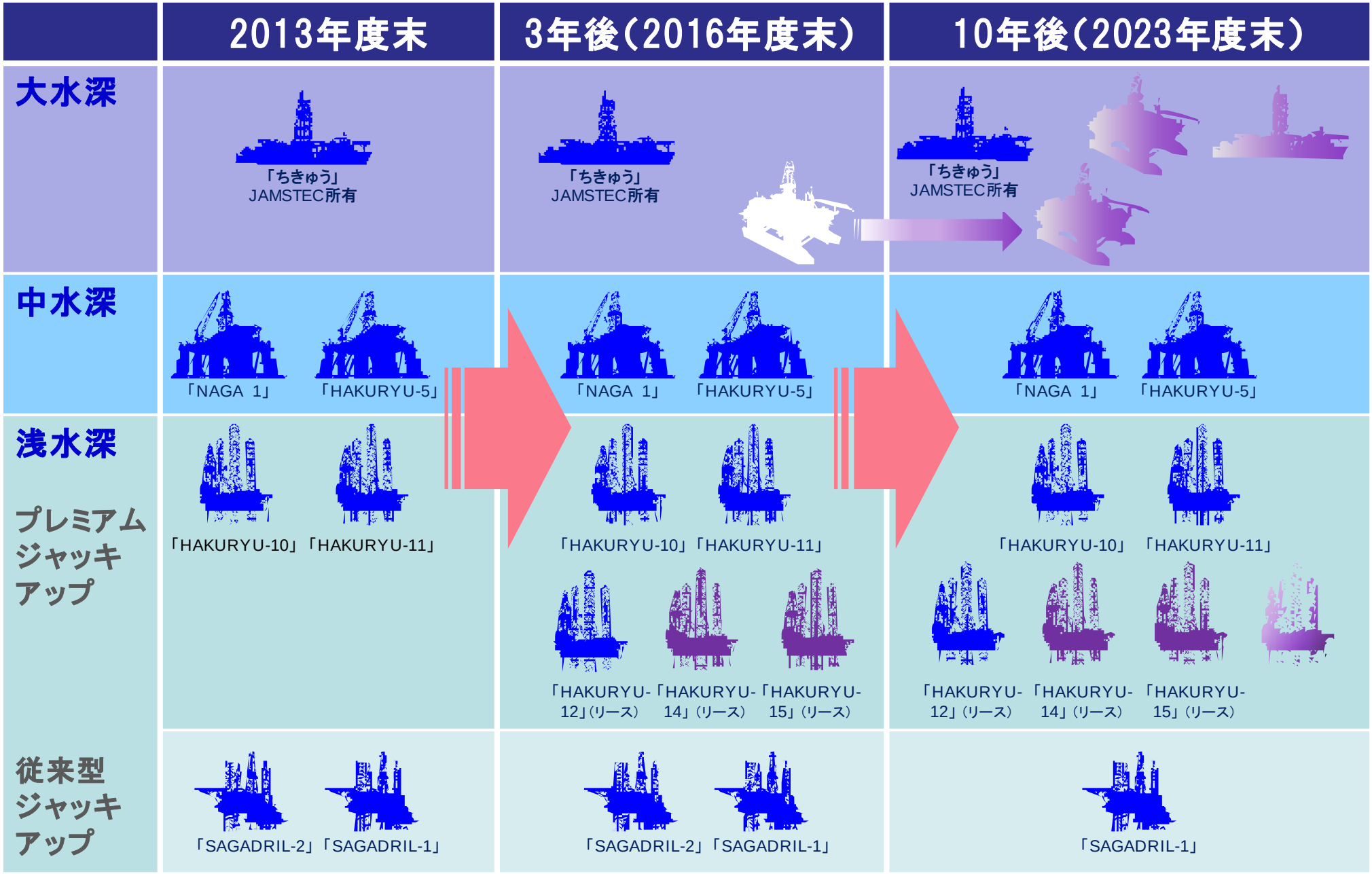
3.最適なリグポートフォリオの構築

- ジャッキアップリグ・フリートを事業の土台として確固たる基盤を築き、その上でセミサブなどフローターを運用する

4.多様なリグ運用による競争力の強化

企業規模の拡大　**競争力の強化**　**経営の安定性の強化**

リグ増強 リグフリート増強イメージ



● 既存リグ　● 新規リグ

リグ増強

新造リグ「HAKURYU-12」南米で操業開始

「HAKURYU-12」は、本年3月17日にシンガポールの造船所より、南米に向けて移動を開始。南アフリカ・喜望峰をまわり、5月9日からスリナム沖で掘削工事を開始。

タグボートに引かれ、造船所から出航する「HAKURYU-12」

沖合で大型運搬船に載せ、南米へ向けて移動

リグ増強

リース方式による新ジャッキアップリグ2基の増強

HAKURYU-14 （注） ＜建造発注者：東銀リース㈱＞	
建造場所	PPL造船所(シンガポール)
デザイン	PPL Pacific Class 400
最大稼働水深	400ft（122メートル）
最大掘削深度	35,000ft（10,668メートル）
居住区収容人数	150名
完成予定日	2016年10月末

HAKURYU-15 （注） ＜建造発注者：東銀リース㈱＞	
建造場所	Keppel FELS造船所（シンガポール）
デザイン	KFELS Super B Class
最大稼働水深	400ft（122メートル）
最大掘削深度	35,000ft（10,668メートル）
居住区収容人数	150名
完成予定日	2016年12月末

・2015年1月
「HAKURYU-14」建造開始

・2015年3月
「HAKURYU-15」建造開始

（注） リグ名「HAKURYU-14」、「HAKURYU-15」は現時点では仮称です。

新たなマーケット　サウジアラビアへの展開

世界の約1割のジャッキアップ型リグを運用する大産油国サウジアラビアに本格展開

JDSA　JAPAN DRILLING SAUDI ARABIA COMPANY
2051058682

所在地	サウジアラビア王国　アルコバール市
代表者	Director, General Manager 嬉野　通晴 （当社取締役常務執行役員）
設立 年月日	平成26年9月8日
主な 事業内容	サウジアラビア王国における石油・天然ガスの探鉱、開発に係わる掘削サービス等の提供
資本金	50万サウジアラビア・リヤル（約1,350万円）
株主	・当社80% ・当社連結子会社Japan Drilling (Netherlands) B.V. 20%

サウジアラビア王国

サウジアラビア王国において、新規取引を開拓し、新たな事業基盤を構築する

ジャッキアップ型リグの国別稼働状況（2015年3月末）

順位	国名	基数	比率
1	メキシコ	49	11.6%
2	サウジアラビア	46	10.8%
3	中国	35	8.3%
4	インド	33	7.8%
5	アラブ首長国連邦	29	6.8%
	その他	232	54.7%
合計		424	100.0%

出所：IHS-Petrodata資料より当社作成

メキシコへの展開

◆ PEMEX設立：

1938年に石油産業が国有化、メキシコ石油公社Petróleos Mexicanos(PEMEX)設立。

◆ 鉱区の開放：

1960年の民間参入の禁止以降、長く国家独占とされていた石油・天然ガス産業を2013年12月末のメキシコ憲法改正により、外資を含む民間企業へ開放。2015年より鉱区入札が順次実施される予定。

◆ 世界最大の浅水深マーケット：

2015年3月末現在、世界で稼働するジャッキアップ型リグの約12%、49基がメキシコ側メキシコ湾に集中。

◆ 有望な大水深マーケット：

米国側メキシコ湾の大水深は開発が進むが、メキシコ側メキシコ湾は手付かず状態。大水深の開発により1日あたり100万バレルもの生産量増加が期待される。

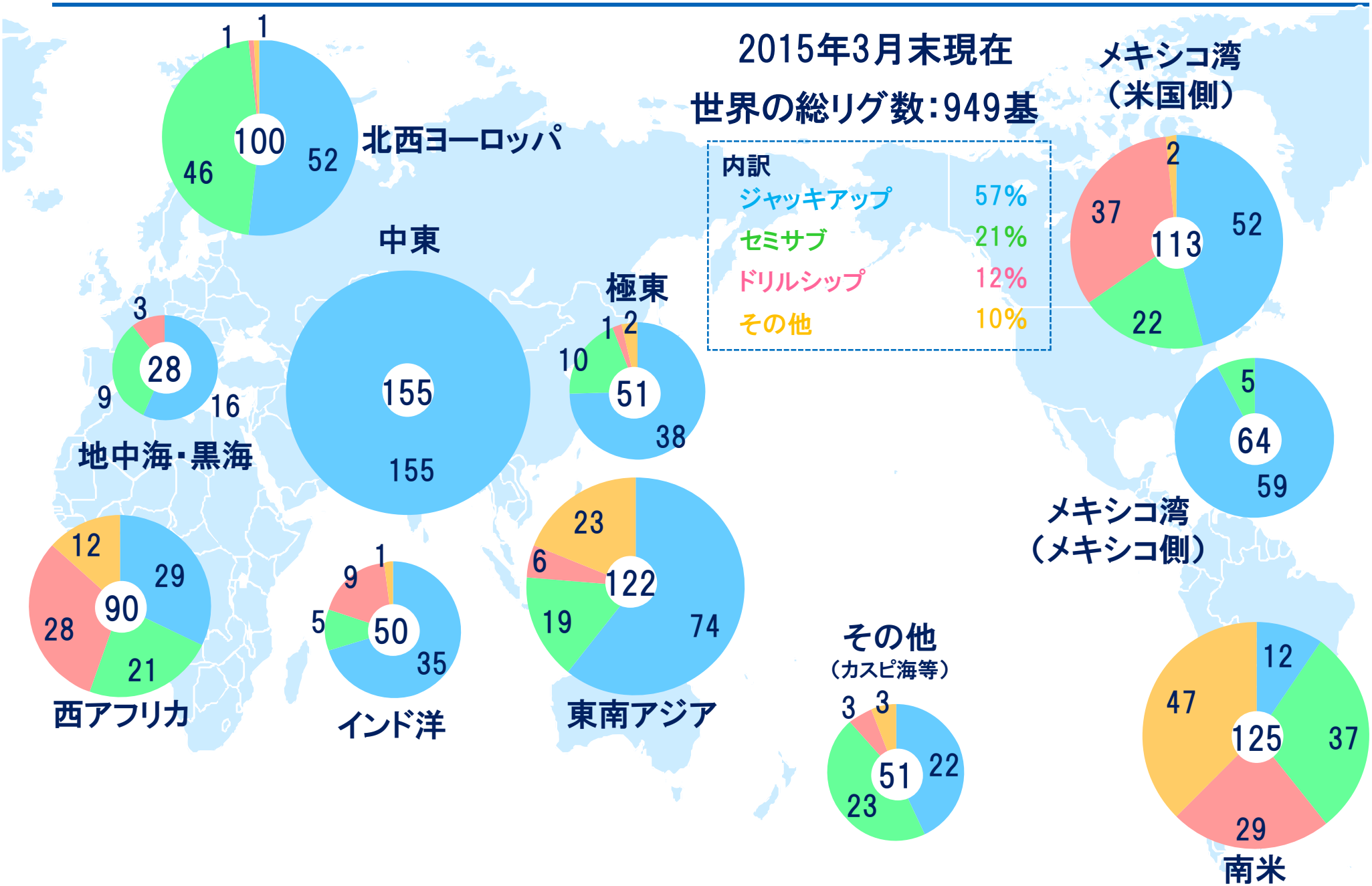
メキシコ湾大水深マーケット：開発済み/未開発エリア

在メキシコ日本国大使館資料「メキシコ・エネルギー改革概要　日本の供給源多様化に向けて」(2015年2月)より当社作成

株主
投資家
取引先
金融
機関
従業員
パート
ナー
行政
JDC

参考資料

主要海域別・リグタイプ別のリグ分布状況



IHS-Petrodata資料より当社作成

成長する海洋掘削市場（リグタイプ別・海域別市場規模予想）

単位：億US$

リグタイプ	海域	2014年	2019年	年平均成長率（CAGR）
ジャッキアップ（浅水深：400ft以下）	北アメリカ	24.0	38.1	9.68%
	南アメリカ	33.7	44.1	5.55%
	ヨーロッパ	35.7	57.3	9.93%
	中東	50.8	65.8	5.30%
	アジア	54.5	94.5	11.63%
	アフリカ	16.4	27.8	11.15%
	その他	4.5	6.2	6.67%
		219.6	333.8	8.73%
セミサブ（中水深：4500ft未満）	北アメリカ	6.3	11.2	12.17%
	南アメリカ	14.5	19.7	6.35%
	ヨーロッパ	43.0	68.3	9.72%
	アジア	23.5	40.7	11.66%
	アフリカ	15.4	26.4	11.24%
	その他	6.6	9.1	6.70%
		109.3	175.4	9.93%

単位：億US$

リグタイプ	海域	2014年	2019年	年平均成長率（CAGR）
セミサブ（大水深：4500ft以上）	北アメリカ	9.2	15.0	10.42%
	南アメリカ	31.2	42.7	6.45%
	ヨーロッパ	5.5	8.5	9.03%
	アジア	16.8	29.6	11.94%
	アフリカ	24.9	43.6	11.88%
	その他	1.2	2.0	10.15%
		88.8	141.4	9.74%
ドリルシップ（大水深：4500ft以上）	北アメリカ	73.4	114.9	9.36%
	南アメリカ	70.8	97.4	6.57%
	ヨーロッパ	10.9	16.8	9.15%
	中東	1.3	1.6	5.17%
	アジア	24.1	42.2	11.87%
	アフリカ	58.1	98.5	11.15%
	その他	1.4	2.7	13.16%
		240.0	374.1	9.28%
合計		657.7	1,024.7	9.27%

MARKETANDMARKETSの資料「OFFSHORE DRILLING RIGS MARKET：GLOBAL FORECAST TO 2019」より当社作成

多様な保有形態によるリグ運用

リグ建造コスト：ジャッキアップ1基約250～300億円、フローター1基約600～800億円
財務状況や掘削契約形態等を考慮し、戦略的にリグの保有形態を選択

自社保有

「HAKURYU-5」
「HAKURYU-10」
「HAKURYU-11」
「SAGADRIL-1」
「SAGADRIL-2」

「HAKURYU-11」

リース方式

「HAKURYU-12」
「HAKURYU-14」
「HAKURYU-15」

リースファイナンスにより当社が運用

「HAKURYU-12」

共同保有

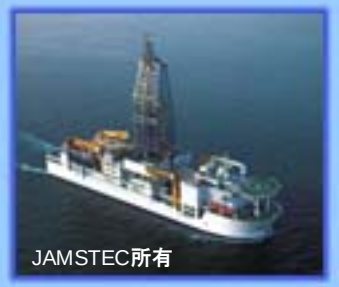
「NAGA 1」

当社とUMW社（マレーシア）との共同保有

国・他社保有リグの運用

「ちきゅう」

JAMSTEC保有のドリルシップを当社が運用



エクイティ参加

「ETESCO TAKATSUGU J」

Petrobras社向けドリルシップ建造プロジェクトに参画

運用リグの保有形態を踏まえ、最適な資金調達の組み合わせを工夫

略語集

JAMSTEC…国立研究開発法人海洋研究開発機構
PCSB社…Petronas Carigali Sdn. Bhd.
Bunduq社…Bunduq Company Limited
POGC社…Pars Oil and Gas Company
Total E&P社…Total E&P Indonesie
Premier Oil社…Premier Oil Natuna Sea B.V.
Teikoku Oil社…Teikoku Oil (Suriname) Co., Ltd.
CGX社…CGX Resources Inc.
PCML社…PC Myanmar (Hong Kong) Limited
ONGC社…Oil and Natural Gas Corporation Limited
Dana Gas社…Dana Gas Exploration FZE
GDI社…Gulf Drilling International Ltd.
JAPEX…石油資源開発株式会社
INPEX…国際石油開発帝石株式会社
UMW社…UMW Corporation Sdn. Bhd.

注意事項【本開示資料ご利用にあたっての留意点】

当資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、発表時点で入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは異なる結果となる可能性がありますので、ご注意願います。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。
日本海洋掘削株式会社　広報・IR室　電話03-5847-5862